

2023年12月24日（日）「飼い葉桶が意味すること」

ルカ 2:1-7

1 その頃、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。2 これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録であった。3 人々は皆、登録するために、それぞれ自分の町へ旅立った。4 ヨセフもダビデの家系であり、またその血筋であったので、ガリラヤの町ナザレからユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。5 身重になっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。6 ところが、彼らがそこにいるうちに、マリアは月が満ちて、7 初子の男子を産み、産着にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる所がなかったからである。

クリスマスおめでとうございます。2023年も終わりに近づいていますが、今年も主イエスのご降誕を祝い、来臨を期待して締めくくれることを感謝いたします。問題山積の世の中にあって、私たちの生活にも多くの課題が残されたまま年を越していくこととなりますが、それは毎年のことと言えるのかもしれませんが。主イエスがお生まれになった当ても、両親となったマリアとヨセフは厳しい現実の中にありました。取り巻く社会情勢だけでなく、主イエスが誕生された環境も劣悪なもので、人生のスタートから試練の連続だったのです。

主イエスがお生まれになった当時、ローマ帝国の皇帝だったのが「カエサル・アウグストゥス」という人物で、本名はオクタヴィアヌス。紀元前27年から紀元14年にかけて皇帝の座に就いていました。この時代、ローマ帝国は地中海周辺のほとんどの地域を統治しており、パレスチナもその支配下にあって、住民は植民地としての義務を果たさなければなりません。住民登録の目的は、ローマ帝国の支配地域に住んでいる人々に漏れなく皇帝への税金を納めさせることです。すべての人にそれぞれの故郷で住民登録することが義務づけられ、主イエスの父となるヨセフも生まれ故郷ベツレヘムへと向かいました。大工だったヨセフは、仕事の納期もあったはずですが、ナザレからベツレヘムへとおよそ100kmの道のりを、身重の妻マリアを伴って移動しました。電車もバスもない時代でしたから、交通手段はおそらくロバだったのでしょう。マリアは臨月でしたから、普通はそのような状況で危険な旅をすることは避けるはずですが、行かざるをえぬ理由があったのでしょう。マリアを一人にしておけなかったのは、もしかすると彼女に対する誤解や偏見によって、ヨセフ以外に彼女の味方になってあげられる人がいなかったのかもしれませんが。聖霊による懐妊であるということを周囲の人々は理解することができなかったのでしょうか。マリアが不品行によって身篋ったと思っていた人々が多かったと思われるので、親からも出産の手伝いをしてもらえなかった可能性があります。ヨセフだけが彼女を理解し、全面的にマリアをサポートし、何かあったときには自分が守り支えるという意志を伝えていたのではないのでしょうか。ところが、出産の日はこの旅の途中で訪れてしまったのです。

ヨセフの故郷は「ベツレヘム」という村でしたが、そこはかのダビデ王の出身地ということで重要だったとはいえ、この時代には誰の目にも留まらぬ郊外だったようです。ベツレヘムに到着し、住民登録の手続きが完了したのかどうかは分かりませんが、困ったタイミングでマリアの陣痛が始まってしまいました。この時代、宿はオンラインで予約できるわけでもなく、おそらく同じように住民登録のために帰郷する人々で一杯だったのでしょう、この夫婦が宿泊する場所は残されていませんでした。「宿屋には彼らの泊まる所がなかったからである」とは、まるで社会から締め出されたかのような響きを持つことばです。救い主の居場所がない世界を暗示しているようです。彼らがどうにか夜を過ごすために与えられた場所は家畜小屋で、それが誰かの好意によるものだったのか、あるいは社会の底辺へと追いやられたような状況だったのかは分かりません。いずれにせよ、彼らは糞尿の臭いが立ち込める場所で一夜を明かすことになりました。

現代日本人の感覚では、どこかで宿泊する場合、できるだけ過ごしやすいホテルか旅館を取り、ゆったりお風呂に入って旅の疲れを癒し、朝は朝食を食べてエネルギーを蓄えて出発するでしょう。しかし、ヨセフとマリアが泊まった場所は、そのような恵まれた環境とは程遠い家畜小屋。電気もなければ水場もない、ガスもなければお風呂もない。そのような環境で一夜を明かそうとしていたところ、出産の時が来てしまったのです。お産婆さんと呼ぼうにも電話などありません。聖書は何も言及していませんが、このとき夫婦は誰の助けも得ることなくイエス様を出産したのではないのでしょうか。

生まれたばかりの赤ちゃんが寝かされた場所は、家畜が餌を食べるための飼葉桶でした。さすがにマリアも産着などを用意していたと思いますが、干し草の上に主イエスは寝かされたのではないか。人の誕生は古今東西を問わず、本人の意志によるものではありません。主イエスもまた、この世に「産み落とされた」人間の一人となられたのです。それも、誰よりも過酷で不衛生な環境での誕生でした。飼葉桶が木で作られたものであったということも、これから主が歩んで行こうとしておられる受難の人生を暗示しています。主は木の上に産み落とされ、木の上で死なれるのです。そう、十字架という木の上でその生涯を全うされる。飼葉桶とは、十字架への道の第一歩だったのです。(飼葉桶の箱 → 十字架)

主イエスの生涯は、どこまでも弱者の味方となり、社会に捨てられた人々の友となり、病人を癒し、罪人に赦しの道を呈示するものでした。この罪なきお方は、ユダヤ教指導者たちの憎しみにより、ローマ式の処刑法である十字架という極刑によって殺されました。この死は一見敵対者の勝利に見える出来事でしたが、神の視点ではそうではなく、多くの人の罪を背負って十字架でそれを滅ぼし、ご自身が贖いの代価となり、人間の罪に対する神の怒りをなだめるという出来事だったのです。人の目には敗北と映る主イエスの死は、実は神の勝利にほかなりませんでした。主イエスはこの目的を達成するために世に来られたのです。まさに、誕生のときからこの死に方が暗示されていた。飼葉桶に寝かされる主イエスの姿は、十字架上で贖いの死を全うする結末を予表していたのです。

私たちは今日、共にクリスマス礼拝を守っていますが、飼い葉桶に眠るイエス様は一人びとりに与えられた神様からのプレゼントだということを、今一度心に留めたいと思います。今日は扱いませんが、この出来事の後、両親はイエス様を神殿に連れて行きます。そのとき、救い主を待ち望んでいた老人たち、シメオンとアンナが幼子イエスを腕に抱いて祝福したと書かれています。彼らは幼子を祝福すると同時に、自分の救いがこの腕の中にあることを認識したのです。私たちも、飼い葉桶に眠るイエス様を「自分の救い」として腕に抱き、この方が全うして下さった十字架による罪からの贖いを心から受け入れたいと思います。

### 【祈り】

救い主イエス・キリストの父なる神様。主イエスは誕生のときから最も低い者となられ、人に仕え尽くす生涯を送り、その結末は犯罪人の一人に数え上げられる、それも最も過酷な十字架という極刑によるものでした。主は私たち罪人を愛するがゆえに、そのような苦しみと恥を受けることをよしとされたのです。飼い葉桶に眠る幼子イエスの安らかな寝顔に、私たちは多くの人の重荷を担って死ぬという使命を見出します。この方が成し遂げて下さった救いを、私たちは全身全霊で受け留めます。この信仰の道を終わりまで歩み抜かせ、私たちも大切な人々にこの福音を宣べ伝えることができますように。

### 【祝祷】

仰ぎ願わくは、

ひとり子イエスを世に遣わし、全生涯を通じて受難の道を歩ませ給うた、父なる神の愛、  
飼い葉桶から十字架まで、最も低い者となって、罪人の友となり給うた、主イエス・キリストの恵み、

主の成し遂げし御業を全力で受け留め、その道を終わりまで辿らせ給う、聖霊の親しき交わりが、

あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。